

令和6年5月

あったか通信



5月も半ばを過ぎました。子どもたちも新しい担任、新しいおともだちに慣れてきた頃です。しかし、子どもたちが一人ひとり顔が違うように、気持ちもそれぞれ違います。まだまだお家が恋しかったりお家の人が恋しい人もあります

4月は泣いていなかったのに、連休を終えた後から泣きだす人もあります。

朝のひと時

担任 「Aちゃん、おはようございます」と声をかけると

A児 「……」

A保護者 「家を出るまで元気だったんです…じゃあ、いってきます。よろしくお願いします」と母が 離れようとしたところ、泣きだし保護者の服をつかみ傍を離れないA児。

担任 「Aちゃん、Bちゃんもきているしもう遊んでるよ。お母さんにぎゅー(抱きしめる)してもらって行ってらっしゃいましょうか」

A児 (お母さんに抱きつく)

A保護者 「はい、ぎゅー。また、夕方迎えにくるからね。お母さんもお仕事早く終わらせてくるし。お友達だちと遊んでてね」

A児 (一層泣き出し、離れられない)

担任 「お母さんと一緒にいいね。それで涙がでるのよね。じゃあ、10数えたらおしまいにしようか」A児の離れたくない気持ちを汲み取り母に伝える。

A保護者 「よろしくお願いします」(A児を10ぎゅーして、担任に託す)A児も泣き顔のまま担任と一緒にクラスに入ると、去年の今頃泣いていたB児がそっと横にきて

B児 「大丈夫だよ。お母さん夕方にくるって」(いつの間にかティッシュをもってきて涙を拭く)

「大丈夫」という言葉も去年、自分が担任に言われていた言葉でした。

C児 (何も言わずに背中を撫でている)

担任 「みんなありがとう。やさしいね。Aちゃんももうすぐみんなと遊べるから待っててね」

A児もみんなが何気なく寄り添ってくれる気持ちがわかったのか涙も少しずつ止まり、また、いつもの笑顔が見えはじめました。担任がA児の気持ちを汲み取る姿を子どもたちも傍で見ていることで、子どもたちなりにA児に寄り添うやさしい姿がありました。

子どもたちの育ちは、ある時は成長した姿を見せたり、ある時期には大きくなったと思っているのに…という姿を見せることがあります。園ではまず、一人ひとりの気持ちを受け留め思いを共感し、あなたに寄り添う気持ちを伝え、信頼関係を築き子どもたちの育ちを支援する事を心がけています。

